

トキ 野生復帰に向けて

14

新潟大学のトキ野生復帰プロジェクト

今回は、新潟大学のトキ野生復帰プロジェクトについて紹介します。

新潟大学のトキ野生復帰プロジェクト

本間航介（新潟大学農学部附属

フィールド科学教育研究センター）

新潟大学は外海府地域に2か所の活動拠点をもち、創立以来、地域の皆様の協力をいただきながら50年余にわたり教育・研究活動を行ってきました。トキ野生復帰計画については、佐渡地



森林文化協会・エコツアー
復元された炭焼き小屋前で、新割り体験（新
穂地区キセン城）

域の自然環境づくりに貢献するための重要な仕事と位置づけ、プロジェクトを組んで調査研究を行っています。

我々は、トキ野生復帰事業は、いまが踏ん張りどころだと考えています。いまのままの状況で進めば放鳥予定の2008年までに環境整備が充分になれない可能性もあります。逆に、これからのがんばりで佐渡が名実ともに「環境の島」となることも可能だと思っています。

トキは田んぼや河川でえさをとり、炭焼き山で寝る「里山の鳥」です。地元の方々が、最も身近な自然である田んぼや河川、里山について理解を深めて行動していただくことが野生復帰の最も重要な条件です。

トキを野生復帰させるために何が必要なのか、いま佐渡の環境はどの様な状況なのか、田んぼや森林にどの様な手入れをすればいいのか、放鳥により地元の産業に問題は生じないのか、など、地元の方々が抱く疑問や不安は尽きないと思いますし、情報不足で誤解が広がっているところもあると思いま

す。こうした状況に対して、研究と教育を実践的に行うことで答えを出していくことが私たちの役目であると考えています。

現在、新潟大学のプロジェクトでは、4つの活動テーマを掲げ、大学の教職員・学生が地域の方々とともに活動を行っています。

生息地モデル整備事業では、小佐渡山中のかつての棚田と里山を再整備して、トキのえさ場・ねぐら・営巣木のそろったモデル地域をつくる作業を行っています。本年度は延べ約400名の方々にご協力いただきました（現在、合計約70枚の水田ビオトープが完成しています）。

自然環境調査事業では、佐渡の里山・棚田・河川の生き物の多様性やその変化を調べ、里山の自然をより良いものにしていくための基礎研究を行っています。また、環境保全型農業の試験もを行っています。

社会環境調査事業では、佐渡島の産業構造や社会構造、経済の実態を調べ、「環境の島」として発展していくために必要な条件をまとめています。

地域環境教育事業では、公開講座や公開実習、小・中・高校への出前授業、地域談話会などによって調査研究の成果を地元の方々にご説明しています。

新潟大学は、今後もトキ野生復帰プ

ロジェクトを通して、かけがえのない佐渡の自然への理解を深めるために活動していきます。これからもご支援、ご協力をお願いいたします。

平成18年2月18日（土）と19日（日）にトキ交流会館にて「第三回新潟大学トキ野生復帰プロジェクト研究成果発表会」を行います。詳細は後日、市報などに掲載します。奮ってご参加ください。



ボランティア活動によって水田ビオトープ（里山生物の生息場所）として再生された小佐渡山中のキセン城棚田群

環境保健課トキ推進室

☎ 22 3111